

みんなで語ろう、市民活動でつくる街 あつべつ街づくりシンポジウム

主催 厚別区

あつべつ街づくり シンポジウム

3月1日、「あつべつ街づくりシンポジウム～みんなで語ろう、市民活動でつくる街～」が、区内のホテルで開催されました。会場には120人を超える市民の方々が集まり、基調講演やパネルディスカッションを通じて、これからのあつべつのまちづくりを考えました。

パネルディスカッション
「あつべつから興る市民活動
と今後の現在と未来」

基調講演



杉岡 直人氏
(北星学園大学社会福祉学
学部教授)

最初に、北星学園大学の杉岡直人教授による「市民活動を通じて街づくりを考える」と題した基調講演が行われました。

杉岡教授は、「主役は区民、行政はプロデューサー」という例えを用い、「いろいろな機会を行政がつくり、区民の方々はそこで提案をすることや、活動するきっかけを見つけていけるようにすることが必要」と、今後のまちづくりの在り方を語りました。

また、「これからの時代は、何か決められたことをするのではなく、自分たちでやらなければいけないことを考えて、それを、みんなで話し合っていくことが大切です」と、市民参加の重要性も述べました。

パネリスト



野口 良江氏
(女性学級あさがお代表)



荒井 美和子氏
(平岡どんぐりの森代表)



佐藤 敏雄氏
(株)ドーコンまちづくり
計画部長)



田村 明
(厚別区市民部長)

◇ ◇ ◇

このシンポジウムの内容は報告書にまとめ、希望する方に配布する予定です。詳しくは、広報さつぽろ厚別区版誌上でお知らせします。

続いて行われたパネルディスカッションでは、杉岡教授をコーディネーターに、地域のさまざまな分野で活動する四人が参加。「あつべつから興る市民活動」その現在と未来」をテーマに、地域、企業、行政の立場で活発な意見交換が行われました。

最後に杉岡教授は「これからの厚別区は、まとまりの良さを大いにアピールして、IT（情報技術）の先進区ということも強調していければと思います」と、締めくくりました。

市民活動パネル展

会場ロビーでは、シンポジウムに併せて「市民活動パネル展」も開催し、ボランティア団体など、区内に活動拠点を置く33団体を紹介。参加者の関心も高く、熱心に見る姿も見られました。

